

平成28年度 第3回大阪府立今宮高等学校 学校協議会 記録

日時：平成29年2月21日（火）15：50～17：00

場所：本校 校長室

協議会委員（敬称略）

吉村 和彦	芦屋大学教授 元今宮高校校長
竹村 弘文	大阪市立木津中学校校長
藤岡 靖夫	自彊会会長
鳥津 刈野	後援会会長
田中佐祐美	P T A会長
山本 英夫	戎橋筋商店街振興組合事務局長

- 1 校長挨拶
- 2 協議会委員および事務局員の紹介
- 3 事務局からの報告

① 授業アンケート（12月実施）

【1】教科ごとの1回目（7月実施）と2回目（12月実施）の比較。

- ・9項目で1回目と2回目の結果が0.20ポイント以上の上昇、0.10、0.05、-0.05、-0.10、-0.20で改善の度合いを見比べた。
- ・生徒取組①「授業内容について、必要な予習や復習ができています」は評価が最も低い。学校全体で2.96
- ・生徒取組②「授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる」は評価が高い。3.34
- ・授業計画「毎時間、授業の目標や大切なポイントを説明してくれる」も評価が高い。3.35
- ・学年ごとに比較すると、1年生は2回目の方が高くなっている。高校での授業で教員の授業の進め方に慣れてきたか。2年生が「中だるみ」となり、評価が下がる学校が多い中、今宮高校は評価が上がっている。

【2】昨年度と今年度の比較。

- ・H28年度とH27年度の3学年比較、
- ・19期生のH28-H29年度比較、20期生のH28-H29年度比較、
- ・H27年度1年生とH28年度1年生との比較、H27年度2年生とH28年度2年生との比較、H27年度3年生とH28年度3年生との比較
- ・授業アンケートについては、全体的に他校と比較して、評価は高い。

② 学校教育自己診断（12月実施）

教員・生徒・保護者の比較

「今宮で学んでよかった」・・・保護者全体では97%が肯定的回答

「総合学科らしさを感じられた」・・・保護者全体では94%

「授業中、大きな声で発言」・・・生徒は徐々に改善。3学年で50%前後の肯定的回答

「教員の授業の工夫」・・・90%の教員が「工夫している」と回答。

1,2年は85%が「教員は工夫している」と回答。3年生は大学入試問題中心の演習系科目が多いためか、70%程度にとどまった。工夫しにくいかも。

「授業のはじめにポイントを伝えている」・・・1,2年生の授業はかなり改善

教員の90%は意識して行っているが、3年生には伝わりにくい。

「授業中のICT活用」・・・1,2年生は90%を越えるまでICTが普及。

③ H28年度学校教育計画および学校評価（案）について

中期的目標・自己評価について

- ・生徒の家庭学習（予習・復習）に対する意識向上のため「学習指導カード」を用いて継続的に指導。
- ・センター試験受験者・センター試験で平均点以上の成績を獲得する生徒・・・H27より微増

- 受験者 H27 137 名 ⇒ H28 144 名、 平均点以上の獲得科目のべ人数 5.2%増
- ・今後の大学入試における英語外部資格の導入に伴い、校内での英検受験を実施。
- 第 2 学年は全員受験 (236 名)

④ H29 年度学校教育計画および学校評価 (案) について

- ・国公立大への進学者数を 40 名以上 (目標)
- ・英検 2 級取得者を 80 以上 (目標) … 関関同立大学以上の進学希望者に 2 級以上を取得させたい。

4 協議

- ・授業アンケートについては大学でも盛んになってきている。アンケートは「やりっぱなし」ではなく、学校として、いかに生徒にフィードバックできるか。
- ・授業アンケート結果は、それぞれの教員にレーダーチャットおよび生徒記述意見 (よかった点・改善してほしい点) を渡している。管理職との開示面談の際に、その教科内で優れている点・評価が低い点を伝えている。
- ・授業アンケートで「教員の工夫」「授業で教えるポイント」について、生徒たちが教員に対してどう思っているのかを分析し改善していくことは、今後、今宮高校の教育を支えていくためには必要なこと。
- ・生徒の予習・復習 (生徒の取組①) について、大学では各授業のためにどれくらいの予習を求めるか、またどれくらい復習が必要なのか。「授業が命」という位置づけでシラバスの書き直しが頻繁に求められる。
- ・授業アンケート・学校教育自己診断について、生徒たちの中には教員や学校に対等な立場で「自分の意見を聞いてもらえる機会を与えてもらった」という気持ちがある。校長がアンケート記述欄をみているかどうか非常に興味がある生徒がいる。
- ・アンケート結果などを教員や生徒に可視化して共有し、改善するシステムがあればよい。何らかの形で生徒に対して、教員側から「こういう形で改善していきたい」と返事を返してあげることが必要。
- ・教員は生徒を評価するのは得意だが、反対に評価されるのは苦手。学校を活性化するためアンケート結果を活かしてほしい。
- ・図書室の 1, 2 年生の利用率が低い。巷でよく読まれている本や生徒に人気のありそうなライトノベル等がおかれていない。生徒側のニーズとのマッチングがうまくいっていない。図書室付近に新書やお勧めの本などに注釈をつけてディスプレイしたり宣伝すると図書室の利用も活性化するのではないか。